

子規顕彰 全国俳句・短歌大会

入賞作品紹介

正岡子規の業績を受け継ぎ、俳句・短歌の普及を図る「第49回子規顕彰全国俳句大会」が9月23日に、「第32回子規顕彰全国短歌大会」が10月26日に子規記念博物館で開催されました。全国俳句大会からは募集句7136句・当日句311句のうち特選43句を、全国短歌大会からは1620首のうち後援賞5首(現代歌人協会子規記念賞を新設)、特選15首を紹介します。(敬称略)

第49回 全国俳句大会

第32回 全国短歌大会

後援賞5首

現代歌人協会子規記念賞

マドンナも乗り来るだろうと
振り返る岡山発のしおかぜ五号
池田 美代子(和歌山県)

日本歌人クラブ賞

金髪と青い瞳の甥の嫁茄子の
ぬか漬け色良く漬ける
尾崎 幸子(新居浜市)

短歌研究社賞

教師して農業をして金魚飼
夫の務めもしている夫
瀧本 朱美(今治市)

募集句 特選 25句

稲畑汀子 選

声あらば賑やかならむ蟻の道
村上 律子(福岡県)

虹消えて妻の淋しき顔となる
前田 比呂志(兵庫県)

子の髪に匂の残る庭火花
佐々木 房子(広島県)

近くより遠くの桐の花の色
三瀬 教世(西予市)

新緑を見てゐる部屋の昏さかな
荒木 かず枝(奈良県)

淡本 和生 選

マネキンに似合ふ水着でありにけり
三好 美樹(神奈川県)

蚯蚓にもある居心地の良き湿度
池田 純子(岡山県)

船長に花束送り卒業す
高橋 和子(香川県)

角川『短歌』賞

金色の夕陽を向こうに座らせて
少年ひとり座るシーソー
加藤 トシ子(秋田県)

現代短歌社賞

水ゆゑに隣と不仲の日もありき
いまは峡の田すべてが荒るる
藤井 重行(山口県)

特選15首

秋葉 四郎 選

金髪と青い瞳の甥の嫁茄子の
ぬか漬け色良く漬ける
尾崎 幸子(新居浜市)

長生きが勢ぞろひして日向ぼこ
田中 正彰(大阪府)

塩焼の魚あましよ雲の峰
溝淵 登志子(香川県)

行方 克巳 選

張り替へし網戸の風に眠りけり
麻生 勝行(長崎県)

矢車のふつとびさうに回りけり
浜西 修(三重県)

そ、くさと立ち上がりけり昼寝妻
乃万 易子(松山市)

遠目にも観世音寺の楠若葉
藤田 昌愁(福岡県)

水が水つき上げて湧く泉かな
日比野 勇(奈良県)

小川 軽舟 選

はるばると来て花の山花の谷
原 和子(島根県)

たんぼぼや二つ転がるランドセル
池田 萩邨(広島県)

ひと月の還暦休暇の初日より夫
毎日わが畑に来る
清宮 惠理子(千葉県)

御神渡りの氷裂けゆく音晴れし
未明の広き湖にとどろく
角田 三苗(神奈川県)

永田 和宏 選

コンビニのレジのおじさん若か
らず若からざるが叱られており
宇都宮 朋子(松山市)

教師して農業をして金魚飼
夫の務めもしている夫
瀧本 朱美(今治市)

明日何も予定なき夜のたのしく
てあしたしぬ日もこのごとく
あれ
岡村 圭子(京都府)

水甘き母郷の井戸や新豆腐
曾我部 剛生(新居浜市)

十葉や歩いてゆける父母の墓
忽那 早苗(松山市)

チャーハンの山崩したる秋の暮
渡部 桜桃(松山市)

福谷 俊子 選

柘ゆけ村中桃の花ざかり
岩城 紀子(松山市)

万緑や生きてゐることふと忘れ
平尾 京子(松山市)

日傘くるくる放浪の血がさわぐ
浅井 久子(松山市)

馬の目に遠きアラブの白い夏
村上 真智子(松山市)

宇宙ばらまだ見ぬ宇宙思ひつつ
岡 つか(松山市)

当日句 特選 18句

稲畑 汀子 選

坂井 修一 選

パイロット七十年と言ふ翁鳥に
習ふと言葉もさやか
上田 しず系(砥部町)

倉林 美千子 選

水ゆゑに隣と不仲の日もありき
いまは峡の田すべてが荒るる
藤井 重行(山口県)

夫知らぬ妻の時間や夜長の灯
三宅 久美子(香川県)

生き残りをるは御負けの金魚かも
廣末 榮子(砥部町)

星月夜この空翔ける翼欲し
黒川 礼子(松山市)

晩学の机を買ひぬちんちろりん
玉井 セツ子(松山市)

仏心も邪心も失せぬ大根時く
河原 みどり(松山市)

高岡 周子 選

父と聞く父への告知桐は実
林 理恵(松山市)

初穀の山にしづかに在る火種
忽那 早苗(松山市)

鬼蜻蛉目玉に勝負ありにけり
玉井 アツ子(西予市)

両手広げ牧に主が牛を呼ぶ
大野ヶ原の早き日暮を
村上 文子(松山市)

クラクシオンにふり向きたれば
大叔父が「乗っていくか」と麦秋
の道
清水 良郎(愛知県)

尾形 冨子 選

買替へし胴長合羽身に鎧ひ夫と
海苔場へ舟を走らす
南 静子(大分県)

四町の棚田支へし水源は荒れて
わづかの錆び水ひたす
藤井 重行(山口県)

金色の夕陽を向こうに座らせて
少年ひとり座るシーソー
加藤 トシ子(秋田県)

玉井 翠陽 選

一病を二人で越えて星涼し
片岡 誠子(松山市)

秋灯師の追悼の文記す
松浦 卓美(松山市)

塾終えし銀輪の帰路星涼し
越智 泰子(松山市)

暮れ泥む棚田に響く落し水
八木 重明(松山市)

白南風や実習船の帆は翼
加藤 康子(新居浜市)

道祖神秋の七草生けられし
石水 はつこ(松山市)

江崎 紀和子 選

昼寝覚百まで生くる顔をして
徳永 陽子(松山市)

ぎんなんの落ちて来さうな胸騒ぎ
井上 嘉津子(松山市)

うらなりの糸瓜に結ぶ赤き紐
和泉 厚子(松山市)